菊里日記

せん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
菊里日記

【Ｎコード】
Ｎ２２３９ＢＡ

【作者名】
せん

【あらすじ】
菊里姫子（１６）ちょっと、いや「かなり不幸」のレッテルを張られた平平凡凡代表女子高生。
そんな彼女、実はお姫様だったらしいです。
引きとられた先で姫様姫様と祭り上げられ昔話だ末裔だと謎だらけの里に住むファンタジー混じりの恋愛物語。

前日

それは丁度冷たい雨の降りしきる6月の頃。

閑静な住宅街に、田舎ではまず見る事のない車がやってきた。
それは普通の車より車体が長く、光沢のある黒。
世間一般でいうベンツ、高級車だ。
ここが都会ならまだしも、此処はあいにく田舎。
黒塗りベンツはあきらかに住宅街で浮いていた。
通り過ぎる人という人が物珍しそうな目で車を見やる。

しかしそんなのおかまいなしと言うように、車はある家の前で音もなく静かに停車した。
赤い屋根が童話の中のような雰囲気を醸し出すこじんまりとした白い家の前に。
紫陽花が見事に咲くその家は、今や近所で専ら噂の家だった。

近所の住民が興味本位で様子見という名の野次馬をする中
間もなく運転席のドアが静かに開いた。
出てきたのはいかにも運転手、という格好の男。
髪はきっちりと整えられネクタイはキュッと絞められている。
オマケに手には白い手袋。

男はまた静かにドアを閉めると軽い足取りでドアの前へやってきた。
白い手袋をしたまま何の迷いもなくインターホンを鳴らすと
家の中から慌てているような、バタバタと足音が聞こえてくる。
少しするとチェーンロックのかかったドアが少しだけ開いた。

家を開けたのは帰宅してすぐなのか、制服姿の女子高生。
ドアの向こう側に立つスーツ姿の男に一瞬驚いたような顔を見せたがすぐに威嚇するような表情へと変わった。
そして小さな声でそっと聞いた。
「どなたですか」と。

男は一度礼をした後己を警戒する彼女に向かってスッと手を差し出した。
慣れているようでその動作は一切の無駄がなく洗礼されていた。

「菊里姫子（くくり　ひめこ）様ですね。お迎えにあがりました。」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2239ba/

菊里日記

2012年1月5日18時54分発行